

ロンゴス作「ダフニスとクロエ」

160711

幕	場	場面	頁	内容	パレエ版の踊り	
第一部 35頁	1	ダフニスとクロエの成長	9	10	レスボス島のミュティレーネーは大きく美しい町である。ヤギ飼いのラモーンは、莊園で、ヤギの乳を飲んで育てている男の子を見つけ装飾品等証拠品を持って帰宅しダフニスと名付け育てることにした。その2年後、羊飼いのドリュアースは、ニンフの洞窟で羊の乳を飲んで育てている女の子を見つけ出生を示す証拠品を持ち帰りクロエと名付け育てることにした。	
			10	17	15歳になったダフニスと2歳年下のクロエは、田舎者とは思えぬほどの器量よしに成長し、兄妹のように牧草で生活した。	
	2	クロエの恋の始まり	17	24	春のある日、エロスの企みにより、村人が狼対策のために深く掘った落とし穴に、ダフニス落ちてしまい身体を汚した。ダフニスは、クロエとニンフの洞窟に行って 身体を洗うが、その美しさを見たクロエは感動し、ダフニスに恋心を抱いてしまう。	
			24	33	ダフニスは、牛飼いだルコンから落とし穴から助けもらった。ところが、クロエのことでドルコンと口喧嘩を始めてしまい、勝った方がクロエに接吻することになった。クロエは喜んでダフニスに接吻するが、 今度はダフニスが初めて、クロエに恋心を抱いてしまう。	ドルコンとの勝負
4	胸の炎が燃え上がる二人	33	38	夏になり、二人の胸の炎はいつそう燃え上がり、眼はお互いの姿に注がれその虜になった。		
		38	43	葡萄の熟れたころ、テュロスの海賊の一隊が武装して上陸し、食料のみならずダフニスも拉致した。救出に行ったドルコンは死ぬが、そのドルコンの笛で牛が動き船が沈没し、ダフニスは救われた。		
		43	44	ダフニスは、クロエと一緒にニンフの洞窟で 身体を洗ったが、クロエの露わな肌を見てより一層恋の炎が燃え上がった。		
第二部 38頁	1	恋を知った二人	45	47	二人は町の人々の人気者でもあり、互いに嫉妬心を抱いたりもした。二人は、ニンフの祭壇への祈りは欠かさなかった	宗教的な踊り
			47	56	秋になり、フィレータースという老人から、炎のように燃え上がった二人の胸の不安感が「恋」であることを教わった。恋に効く妙薬は、接吻、抱き合うこと、着物を脱いで一緒に地面に寝ることだが、 二人は抱き合うことまでやってみた。	
	2	拉致されたクロエ	56	64	血気盛んな若者たちが原因で、メーテュムナの市民達は宣戦布告なしにミュティレーネーの村と戦争に入った。	
			64	66	ダフニスは、クロエが拉致されたことを知り、ニンフに救済を訴え深い眠りに落ちた。	夜想曲
	3	愛を確認し合う二人	66	75	ダフニスは、3人のニンフがパンの神にクロエ救済を頼んだことを知り、ニンフとパンの神の像の前で、ひざまずいた。メーテュムナの司令官は、夢の中でパンの神から警告されたので従い、「松の枝の冠」をかぶったクロエを解放した。	神秘的な踊り 森の神々の登場
			75	79	フィレータースは、パンの神の笛にはかなわないと言いながら披露することになった。他方、ラモーンは、笛(シュリンクス)の由来を話す。	ラモンの語り
第三部 40頁	1	辛い冬	79	81	フィレータースの笛に合わせて、ダフニスがパーンの神を、クロエがシュリンクスの由来を踊った。その笛を借りて吹いたダフニスは、フィレータースからその笛を与えられ、後継者に指名される。	無言劇
			81	83	二人は接吻し抱き合い、初めて横になった。 ダフニスはパンの神に、クロエはニンフに愛の誓いをした。しかし、クロエは、パンは浮気な神で信用ならない、と言い、ダフニスは、裏切ったら自分が死ぬという。	
			84	95	冬が来て大雪により道がふさがれ、ダフニスとクロエはなかなか会えなかったが、二人の恋は途絶えることなく続いた。	
2	愛を知ったダフニス	95	98	老人すら欲情する春が来て、 二人は着物を脱いで一緒に地面に寝るが、その先がわからずダフニスは泣き出す。		
		99	110	人妻リュセイオンが、一緒に地面に寝たその後のことを、ダフニスに教えた。しかし、恐れを感じその先はクロエにはしなかった。	ヴェールの踊り	
3	危機に陥るダフニス	110	114	夏になる頃には、クロエを嫁に希望する金持ちが大勢現われたので、ラモーン達は、別れさせるつもりだった。		
		114	124	ダフニスから相談を受けたニンフ達のお蔭で、大金のありかを教えてもらい、ダフニスはクロエと結婚できることになった。		
第四部 42頁	1	再度邪魔されるダフニス	125	135	秋の気配が忍び寄る時期に、ラモーンが使える大富豪ディオニューソファネース夫婦が視察に来る、というのでダフニスも準備に忙しい。しかし、クロエを嫁に欲しがる高慢な牛飼いのランピスが、ダフニス整備した土地を荒らしまくる。	
			135	145	大富豪の若主人の取り巻きの男色好みのグナトーンは、ダフニスの美しさに惚れて自分の恋人にしようとする。	
	2	身元が判明するダフニス	145	154	ラモーンは、大富豪ディオニューソファネース夫婦に、ダフニス出生の真実を話す。証拠品を見た大富豪夫婦は自分たちの子と知る。息子の為の祝いに生け贄を捧げて宴会を催すことになったが、出席しなかったクロエは一人泣いていた。	
			154	157	そんなクロエは、牛飼いだランピスの嫁になるためにさらわれたが、グナトーンがクロエを取り戻してきた。	
3	身元が判明するクロエ	157	162	クロエの父ドリュアースは、ダフニスと実の家族に、クロエの出生について、証拠品に基づいて真実を話した。ダフニスの両親は、出身が不明にもかかわらず息子のためにクロエを嫁にすることに、町の上流階級の人々を呼んで宴会をした。		
		162	165	証拠品を見た富豪のメガクレースは自分の娘が生きていることを喜ぶ。ニンフとパンとエロスの神に感謝する。		
4	結ばれる二人	165	167	結婚式は牧人風に行い、 ダフニスは、人妻リュセイオンが教えてくれたことを試み、 二人はそれまでの自分たちがしていたことが、幼い牧童の遊びにすぎなかったことを知る。その後、二人は生涯を通じて牧人風の暮らし方を変えなかった。		